

板締め 雪花絞り を体験



興正寺僧侶、職員から布の折り方など説明を受ける子どもたち
四季折々に、さまざまなお子様向けの行事を開催する八事山興正寺＝昭和区八事本町＝の「子ども寺子屋」。この夏は7月31

日、昨年も好評だった有松に伝わる染色「板締め雪花絞り」を行い、約20人の子どもたちが午前と午後に分かれて体験しました。

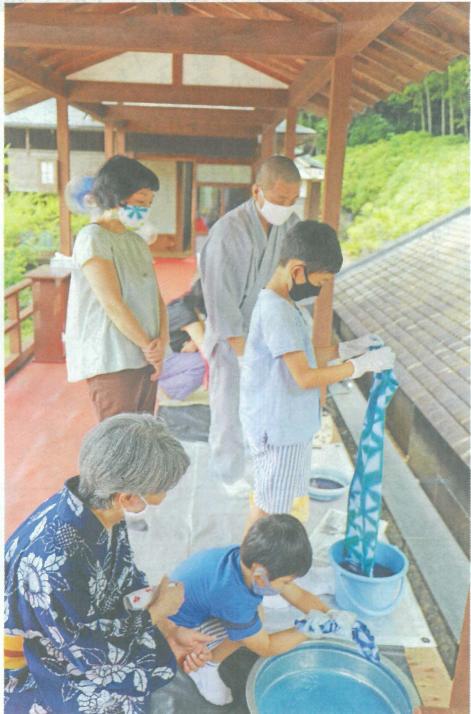
講師の興正寺僧侶と職員から、「藍色が持つ意味」や「昔の藍の色を作り方」などを藍染めについて学び、板締め、染め方の説明を受けてから回廊で実践に入りました。木綿の布を折りたたみ、プラス

チックの板で締めて、少しずつ藍色の液に付けていくところなど、子どもたちは、「どんな模様に仕上がるかな？」と興味津々。始めて、楽しくて参加していた

染め終わった後、子どもたちは、水の器に入った冷たい抹茶とかわいらしいデータの蚊取り線香立てをあしらった和菓子をいただき、大喜びでした。

（41）と圭原さん（25）は、「楽しそうに参加してもらいたい、模様にはそれぞれ個性が出ていてよかったです」と話していました。

八事山興正寺 子ども寺子屋くらぶ



僧侶の見守ながら、楽しそうに体験する安田峻太朗君（左）と悠馬君